令和６年度 事業計画

（2024 年 1 月 1 日より 12 月 31 日まで）

事業運営の基本方針

建築を含めた文化全般に対する世間の興味と関心を高め、建築文化の発展に貢献することを目的とし、４つのカテゴリーの中から展覧会を企画する。ギャラリーでの展覧会会期中に、シンポジウム、講演会、ワークショップ等を開催するとともに、他の公益法人、機関等とも連携し、広範にわたり情報文化発信を行う。

1. 公益目的事業

（1）展示事業（定款 第４条第１号～第３号）

① 建築文化及び関連する支援活動

ア 「吉村順三の眼（まなざし）アメリカと日本」展

内　　容　　戦前戦後、日本とアメリカを行き来し、日本の建築文化をアメリカに伝えた建築家吉村順三。1940年、吉村はペンシルベニア州ニューホープに帰国していたアントニン・レーモンドに招かれ、1941年の開戦の直前までレーモ ンド夫妻とともに暮らした。滞在期間に、米国郊外のコロニ アル建築の素朴な空間からニューヨークの摩天楼に至る米国の生活文化を間近に経験する。その経験は、吉村が日本建築の伝統の中に潜む、近代建築の要素を再発見するきっかけとなる。
戦後、吉村は、アメリカで経験した近代的な生活様式を日本の建築に取り込む。それと同時に、ニューヨーク近代美術館（MoMA）の中庭に建設した「松風荘」をはじめ、モテル・オン・ザ・マウンテンなどの作品を通じ日本建築の思想をアメリカに紹介した。展示では、吉村がアメリカで担当した作品から日本の作品までを紹介し、その業績を明らかにする。時を経ることで、使い手の心地よさが増すと言われる作品群から、真摯で誠実な吉村順三の建築家としての仕事と眼差しに触れる。

期　　間　　2023 年 12 月 22 日から 2024 年 3 月 28 日

方　　法　　吉村順三がレーモンド事務所のもと担当したアメリカの作品から、日本に帰国して独立したのちに日米で建設した作品の資料を「写真」「図面」「模型」や「スケッチ」と共に紹介する。また、現在も吉村順三の作品を継承している使い手へのインタビュー映像も紹介する。

イ 「建築家・阿部勤の仕事　中心のある家」展

内　　容　　阿部勤（1936-2023）は、1960年に坂倉準三事務所に就職、1966年よりタイに学校を建設するプロジェクトに携わった際に現地に5年間滞在する中で、庇の下に日陰をつくり、風通しを確保しながら自然と共生する生活様式を実現する建築の要素を学んだ。同時期に設計した自邸は、壁に囲まれた空間の外と中をゆるやかにつなぐ回遊性のある構成で、いつの日か「中心のある家」と呼ばれ、名作住宅として広く知られている。坂倉準三事務所を独立後、戸尾任宏、室伏次郎と設立した建築研究所アーキヴィジョン1975年に室伏氏とアルテック建築研究所設立を経て、1984年に株式会社アルテックを設立し独立する。スウェーデンの画家カール・ラーションの”正しく古いものは永遠に新しい”という言葉を好んだ建築家の自邸を通じて、人生のライフスタイルと共に手入れをし、より住まいやすくカスタマイズする生きた建築の有り様を模索する。阿部勤は、2023年に86歳で生涯を閉じた。阿部の建築家としての思想を辿りながら、自邸「中心のある家」を中心に、家と建築家の関係を紐解く。

期　　間　　2024年12月20日から2025年3月27日（仮）
方　　法　　阿部が残した膨大なスケッチ、図面、模型等の建築資料のほか、愛用品、写真、自邸の動画、関係者へのインタビューなどで構成し、住まいとは何か、建築家と家との関係を考える。

②　教育普及活動展

ウ　「絵本で世界をひらく　松岡享子からの贈り物」展

内　　容　　松岡享子は(2022年逝去)は、子どもと本が出会う場所の大切さを伝え、その遺志を継ぐ東京子ども図書館は、現在も活発な活動が続いている。本企画は、財団設立へ尽力し、〝翻訳者〟として、また〝作家〟として、世界のお話を子ども達へ届けた松岡享子の功績を追う。
松岡享子は、神戸女学院の英文科卒。その後慶応大学の図書館学科に編入し、公立図書館の存在意義に目を開かれ、児童図書館員を志した。アメリカのボルチモアにある公共図書館にワーキングホリデーで就職する。帰国後、大阪市立中央図書館に勤務するが、児童奉仕をつづけることが出来ない状況に直面して職を辞し、土屋や、石井の文庫で働く世話人たちの勉強グループに加わる。その後、東京で石井桃子らと共に家庭文庫をひらき、児童文学の研究、翻訳、創作に従事する。また〝図書館員〟として、多くの絵本や童話を子どもたちに届けてきた。「物語と本」を大切に思い、「子ども」の心に向き合い、やわらかい言葉で、あたたかな物語を語った。その言葉で世界の扉を開き、想像力を育くむ子ども時代を過ごした人は計り知れない。東京子どもと図書館設立50周年を迎えた本年、松岡享子の「子どもの本」への思いに触れる機会とする。

期　　間　　2024年9月13日から2024年11月29日（仮）
方　　法　　松岡享子の生い立ちから、子どもへ、自ら働きかけて本の世界を届けたその業績を、年表、写真、テキスト、映像で紹介。松岡の声で届けるお話の世界も紹介。松岡が暮らした蓼科の山の家での暮らしぶりやその手仕事作品、蔵書の紹介。また東京子ども図書館の50年の活動記録を合わせて紹介する。また書棚、アトリエの再現により、子どもが訪れやすい空間設計を施す。

③　時代を反映したトピックス展

エ　「オウドルフのナチュラリスティックガーデン」展

内　　容　　Piet Oudolfは、ニューヨークハイラン（高架線路跡）の公園の植栽デザインほか、世界中のランドスケープデザインを手掛けるデザイナーである。オウドルフは、外来の植生を加えず、自生する現地種の植物を植え、雑草や、枯れた植物にも生命循環の美しさを見出す革新的なアイデアと思想により、世界的な評価を得ている。四季折々の風景を五感で感じ、小さな変化への気づきや、自然と歩きたくなるアプローチ空間は、人とのコミュニケーションを醸成し、豊かな時間の過ごし方につながる。都市の外部空間の活用は、人々をシェルターから解放し、自然との関わりを取り戻す、豊かな時間の過ごし方への提言となる。本展では、オウドルフ氏が手掛けたニューヨークのハイライン他、緑地空間を形成した事例、また、英国の週末医療施設マギーズセンターのロイヤル・マーズデンのオアシス・ガーデンを紹介、さらに日本国内で初となる読売ランド「はなびより」の紹介を行う。

期　　間　　2024年4月17日から2024年6月27日（仮）
方　　法　　アウドルフの庭の事例をスケッチ、図面、から写真、映像で紹介。また本人のインタビューまた、ガーデンのユーザの声も撮り下ろし映像で紹

介。また、四季折々の植生の変化を楽しむガーデンづくりの手法紹介と模型を使った植生によるグラデーションデザインの説明。
なお、オリジナルの植生花の実物展示も行う。

オ　点字を読む　展

内　　容　　人が五感から得る情報の80%以上を視覚が占めるといわれるが、ロービジョン、色弱、全盲など、一人ひとりの「見え方」は一様ではない。だからこそ人は、他者と、社会とつながるための様々なことばの形、コミュニケーションの方法を編み出してきた。“点字”は触覚を通じて情報を伝えるだけでなく、視覚障害者自身が、自分自身の意志とタイミングで「読む」「書く」営みを可能にし、また暗闇の中でも読むことができる、可能性に満ちた言語だ。
一冊の本を点字に訳すには、一字一句の読み方を考察しながら音訳するボランティアの人々や、特殊な製造機械を操る職人など、多くの人々が携わる。その工夫に満ちた過程を追い、点字の世界に足を踏み入れたい。さらに点字は飲料水の缶やシャンプーなどの日用品に、街には点字ブロックやエレベーターのボタンなどに点字が備えられ、人々の移動や暮らしを陰ながら支えている。“点字”を出発点として、紙の上から空間へ、まちへと広がる「情報のバリアフリー」について考える。

期　　間　　2024 年 7 月 5 日から 2024 年 9 月 5 日（仮）

方　　法　　「点字とは何か」を知るための、歴史、分類、働き他、点字図書の制作過程等を写真、映像、実物の展示により紹介。またユーザー（研究者、視覚障碍者）へのインタビューなどを行い、今後の可能性や課題を探る。さらに健常者が点字を視覚、触覚で体験できるコーナーを設ける。またコーディネーターの永村裕子氏によるギャラリートークも実施する。

④　**現代アート展**（当年は該当なし）

(2) シンポジウム・ワークショップ（定款 第 4 条第 4 号）
文化及び芸術に関するシンポジウム、セミナー等の企画、誘致及び開催
ア～オの展示会関係として計画している。

(3) 巡回展・アウトリーチ（定款 第 4 条第 7 号）
この財団の目的を達成するために必要な事業

ア　裏磐梯高原ホテル企画 1　「本のある風景」展

内　　容　　本との出会いの場の大切さとその一つとして現在の公共図書館の可能性を探る。一般公募の本との出会いを紹介した「百冊百景」の本棚の再現、また国内外の特色ある公共図書館の事例や取り組みなどを、写真、資料映像にて紹介。

期　　間　　2024 年 2 月 1 日（木）～2024 年 3 月 31 日（日）

場　　所　　裏磐梯高原ホテル

イ　裏磐梯高原ホテル企画 2　「多田美波」展

内　　容　　ホテルに移築された多田シャンデリア他の作品を紹介するとともに、多田美波の業績を写真、スケッチ（データー）等により紹介する。

期　　間　　2024 年 7 月初旬～ 9 月下旬（仮）

場　　所　　裏磐梯高原ホテル

(4) 芸術文化活動拠点提供（定款 第4条第5号）

建築及び芸術文化の表現活動拠点の提供

ア　東京都建築士会　「住宅課題賞」企画展

内　　容　　関東エリアの建築学部の卒業制作の優秀作品の展示

期　　間　　2024年11月28日から2024年12月10日（予定）

方　　法　　資料展示、パネルと模型資料による解説。公開審査による講評会を行う。

(5) 調査研究及び資料収集（定款 第4条第6号）

建築文化に関する調査研究及び資料収集

ア　過年度展示事業のアーカイブ化及び後年度展示事業の調査研究

内　　容　　過去の活動記録の整備次年度以降の展示事業について調査研究をする。

期　　間　　2024年1月1日から2024年12月31日

イ　企画・出版・教育・広報事業の調査研究

内　　容　　企画コンテンツの出版化について調査研究をする。

期　　間　　2024年1月1日から2024年12月31日

3. 法人の管理運営

①内部統制システムの整備推進

②長期将来ビジョン構想の推進

③展示予算管理システムの運用

以上